

～地域みんなで子どもの未来を応援するために～

広われ、

こども食堂の輪！
全国バー

公式パンフレット

〔第1版〕

「こども食堂」って どんなところ？

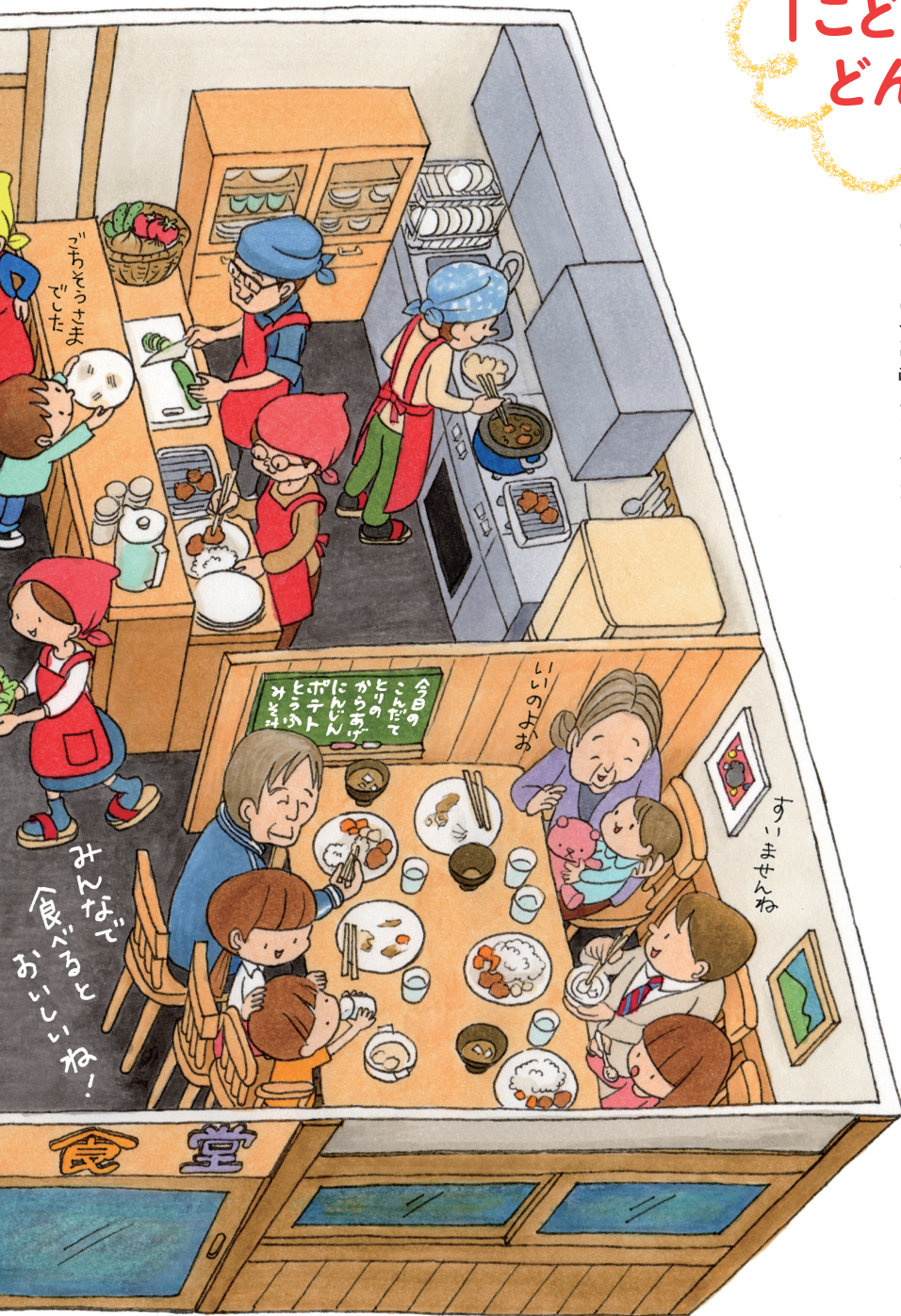
こども食堂とひとことでいってもさまざまな形があります。

その名づけ親である「気まぐれ八百屋だんだん こども食堂」の店主・近藤博子さんは、こども食堂について「子どもが一人でも安心して来られる無料または低額の食堂」と言います。

今回の「全国ツアー」ではこれに
ならない、「(困難を抱える家庭の)子どものための食堂」だけでなく、た

たとえば高齢者の食事会に子どもが参加している場合なども「こども食堂」と広くとらえています。

そんな雰囲気端着端的に表したのが左のイラストです。こども食堂は食事を提供するだけでなく、子どもが子どもたちどうしで、あるいは地域のさまざまな大人たちと触れ合うことができる交流の場所でもあると考えています。



どうして 「全国ツアー」が 必要なの？

こども食堂はいま、全国に広がっています。報道によれば、今年5月末時点で全国に300カ所以上あり、その後も各地で増え続けています。

一方で、現在こども食堂に取り組んでいるのは、ボランティア活動や子どもをめぐる問題に強い関心のある方々にとどまっているのも事実です。

地域活動に長く関わってきた自治会や婦人会の方々、社会福祉協議会や民生委員、行政関係のみなさんにもこども食堂の活動を理解していただくことで、「一部の人たちの取り組み」から「地域住民の誰もが理解し関わっていきける取り組み」へと広がっていきたいと思っています。

国や地方自治体、企業、そして一般の方々も、子どもの6人に1人が貧困状態にあるといわれる現状を「なんとかしなければ」と思い、解決へ向けて動き始めています。この機運を逃すことなく、さらにこども食堂の活動のすそ野を広げるため、「全国ツアー」を行ないたいのです。

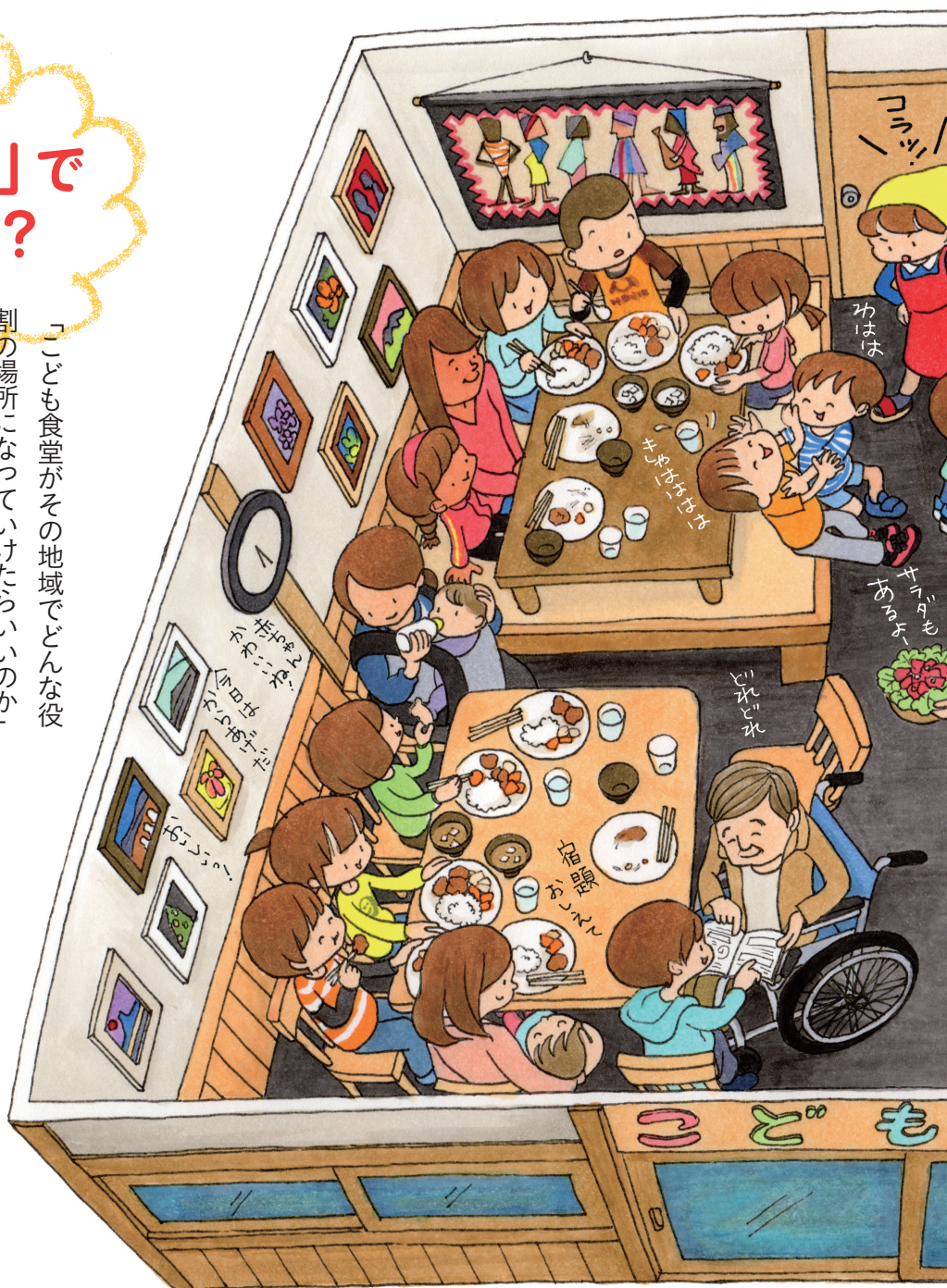
「全国ツアー」で 何をするの？

「こども食堂がその地域でどんな役割の場所になっていけたらいいのか」「地域の人たちがこども食堂にどんなふうに関わっていきけるんだろう」こうしたこども食堂の理念やあり方について、講演会やシンポジウムなどを通して考えていきたいと思います。

たとえば高齢者給食が進んでいる地域であれば、「高齢者給食とこども食堂との連携方法」といった、地

域の実情に根差した「こども食堂のあり方」についても、多様な立場の方々をお招きしながら話し合っていきます。

また、これからこども食堂をはじめたいという方々へむけて、先に活動を始めた「先輩こども食堂」のみなさんから、ノウハウの共有や先進事例の紹介もしていただきます。



「全国ツアー」の、 その後…

その場で出会った人たちがつながり、子どもたちのための活動がひとつでも増えていくことを願っています。もちろん、あたらしいこども食堂がたくさん生まれたら最高にうれしいですし、学習支援や地域の活動との連携が深まっていくのもいいですね。

こども食堂が、子どもだけでなく、その地域のすべての人たちにとって欠かせない空間になり、子どもが抱える問題を発見し、そこに集まった人たちで解決の方法を考え、次の支援へとつなげる場所になっていく。最終的には、地域から困っている子どもたちが一人でも減ることが私たちの願いです。

こども食堂のつくり方講座

こども食堂ネットワーク・編

こども食堂をはじめたいけれど、まずは何から手をつければいいのか……。

そう思っている方も多いのではないのでしょうか。

そこで、地域でこども食堂の活動をされている方々の連絡会

「こども食堂ネットワーク」が開催する「こども食堂のつくり方講座」から、

こども食堂をはじめめるための基本の「キ」について教えてもらいました。



1

こども食堂をはじめめる前に

こども食堂には多様性があり、さまざまな形があつていいと思います。

そこでこども食堂をはじめめる前に、まずは次の3点をなんとなくイメージしてみることをおすすめします。

- どの程度の頻度で開くのか
- 一回で何人くらいの利用者を想定するのか

● どんな人に来てほしいのか

すでに始まつているこども食堂を見ると、おおよそ週に一回、あるいは月に1、2回開催するところが多く、一回に20〜30食程度（多いところでは50食以上）を提供しています。

NPOなどの市民団体が母体になり開いているところも多いですが、ふつうの主婦の方が仲

間と一緒に始められる例も多い。

だれでも開くことができるのがこども食堂の魅力のひとつです。こども食堂を実際に見たことのない方は、一度、地域のこども食堂を見学したり、ボランティアとして参加してみると、その雰囲気がかめると思います。

2

「場所」と「ネットワーク」が大切です

椎名町こども食堂をはじめ、豊島区内で4カ所のこども食堂を運営するNPO法人「豊島子どもWAKUWAKUネットワーク」事務局長の天野敬子さんは、こども食堂には「場所」と「ネットワーク」が大切と言います。

お寺や教会、あるいは公民館などの公共施設、個人の自宅や飲食店の休業日など、さまざま

な場所でもこども食堂は行なわれていますが、場所代が高額になると継続することがむずかしい。なるべく安価（無料だとさらにいいですね）で借りることができて、衛生面もしっかりしている。さらに、子どもたちが集まりやすい場所が見つかるとうれしいですね。

また、こども食堂の活動を一緒にやってくれる仲間がいると

心強いと思います。そのなかで、子どもたちと密につながっている方、お米や野菜などの食材を提供してくれる方、調理師や栄養士の資格を持っている方、運営資金をカンパしてくれる方……。そうした地域のさまざまなネットワークがつかないといくと、こども食堂を運営するうえでも心強いサポートになつていきます。





4

子どもたちの安全・安心のために

子ども食堂をはじめするには、特別な資格もいりませんし、届け出を出す必要もありません。しかし、子どもたちに「食べ物」を提供するので、その安全・安心には細心の注意が必要です。多くの子ども食堂では、事前に保健所に相談をして、子ども食堂の規模や頻度、場所に応じた届け出をしています。この点

については、自治体によって異なる点も多いので、地域の先輩子ども食堂さんや保健所の方と相談したうえで、最善の方法を模索してください。

また、不測の事態に対処するため、イベント保険やボランティア保険などに加入しておくことも、子どもたちの安心のためにおすすめしています。

3

地域の人に相談してみよう

地域の子どものための事情については、やはりその地域の方々がいちばん詳しいと思います。役所・役場で「子ども」「福祉」を担当している部署、地域の社会福祉協議会、学校や保育園・幼稚園の関係者、民生委員・児童委員さん、児童館や学童クラブのスタッフ……、そのほか子どもに関わるあらゆる人に相談してみてもいいでしょうか。そこで新たな出会いが生まれ、一緒に子ども食堂を運営していくことになるかもしれません。たとえ協力を得られないとしても、「子ども食堂をやりたい人がある」ことを地域の人たちに知らせることになるので、決して無駄足にはなりません。全国には、子ども食堂の活動を行う政が支援している自治体もいくつかあります。「子ども食堂が必要」という市民の声が、行政を動かす力にもなるのです。

5

毎回、試行錯誤の連続です

「子ども食堂があることを、どのように子どもたちに伝えるか」実はこれが、子ども食堂を始めた多くの方が抱える課題でもあります。そして、そこに簡単な答えはありません。

子ども食堂をはじめの方のほとんどは、「子どもの貧困」や「孤食」の問題を解決する力になりたいと思っています。しかし、最初からそうした問題で苦しんでいる子どもたちだけに、来てもらおう場所をつくることはなかなか難しいのが現状です。毎回、試行錯誤を重ねながら、子ども食堂が地域のなかで信頼できる場所になっていくこと。そして、子どもたちに深く関わっている方々の協力を得ながら、子どもたちだけでなく、多くの人にとって重要な「居場所」となっていただけだと思います。

さらに詳しく知りたい方は…

『子ども食堂をつくらう！
～人がつながる地域の居場所づくり～』
NPO法人豊島子どもWAKUWAKU
ネットワーク編著
本体1400円＋税 明石書店



豊島区で4軒の子ども食堂を運営する「豊島子どもWAKUWAKUネットワーク」さんが、子ども食堂の立ち上げ準備から運営のコツまで体験談を交えながら紹介しています。

つくり方講座に参加したい方は…

子ども食堂ネットワーク

<http://kodomoshokudou-network.com/>

「つくり方講座」は不定期(2～3ヵ月に1度)で開催しています。ご希望の方は、上記のウェブサイトからお申込みをお願いします。また、過去に行なった講座のアーカイブ映像も見られます。

【問合せ】

子ども食堂ネットワーク事務局

電話: 03-5365-2296 (平日10時～18時)

メール: info@kodomoshokudou-network.com

※メールの場合、すぐに対応できないこともあります。



名づけ親が言う 「こども食堂」ではない

文・写真／湯浅誠（社会活動家・法政大学教授・「広がれ、こども食堂の輪！」全国ツアー実行委員）



だんだんの玄関口。



店主の近藤博子さん。



とっつきやすさが売り

こども食堂が急増している。報道によれば、全国で300か所以上が確認されている。しかも、うち285か所はこの2年間の開設だというから、ちょっとしたブームと言ってよいだろう。

こども食堂のメリットは、なんといってもその「とっつきやすさ」にある。

広がり続ける子どもの貧困に心を痛めている人は多い。「親の責任だ」と非難していれば子どもたちの状況が改善する、というわけでもない。少子化が進む中で貧困率増加は、日本の将来像にも影を落とす。教育は大事だが、勉強を教えられる自信はない。何かできないかと思うが、何をすればいいのかわからない。——そう思い悩む人たちに、こども食堂は格好のツールを提供した。

「これならできるかも！」

ネーミングが9割

同時に忘れてならないのが「こども食堂」というネーミング。「こども」「食」という必殺アイテムを並べたこの簡潔なネーミング

が、誰のために何をするかをこれ以上ない形で明確に表わす。こども食堂の広がりは、このネーミングを抜きには語れない。

その名付け親が、近藤博子さんだ。「気まぐれ八百屋だんだん店主」の肩書をもつ、東京都大田区にある小さな八百屋さんだ。

彼女が「こども食堂」の呼び名を使い始めたのが2012年。それ以前にも同様の取組みはあったが、こども食堂という概念は、ここから生まれた。

その近藤さんが今、「こども食堂」ブームを歓迎しつつ、懸念も示す。それは「こども食堂は、こどもの食堂ではない」ということ。どういうことか。東急池上線・蓮沼駅にほど近い「だんだん」を訪ね、話を聞いた。

貧困家庭の子ばかり集めるところ？

近藤さんがもっとも懸念するのは「こども食堂」というと、貧困家庭の子どもたちを集めて食事をさせるところと誤られてしまう」とこと。それが、広がりを生む半面で、反発も生んでしまった。

いわく「貧困家庭の子ばかり集めるなんて、子どもがかわいそうじゃないか」

いわく「子どもの貧困は親の責任。他人が介入すべきではない」

違う、そうじゃない。もともとその定義が誤解を生んでいる、と近藤さんは言う。

近藤さんの定義はこうだ。

「こども食堂とは、こどもが一人でも安心して来られる無料または低額の食堂」。

それだけ。「こども」に貧困家庭という限定はついていない。「こどもだけ」とも言っていない。

大事なことは、子どもが一人ぼっちで食事しなければならぬ孤食を防ぎ、さまざまな人たちの多様な価値観に触れながら「だんだん」を提供することだ。だから、一人暮らし高齢者の食事会に子どもが来られるようになる、それも「こども食堂」だ。子どものための、子ども専用食堂ではない。

『場』としてのこども食堂

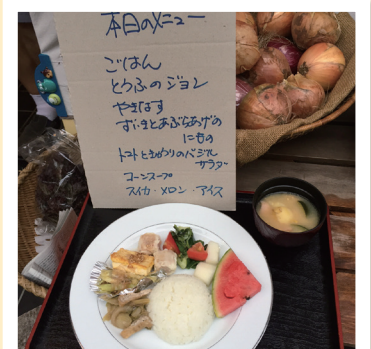
「むしろ、より積極的に、多世代交流型になることが望ましい」と近藤さんは言う。

孤食をわびしく感じるのは、子どもだけではなく。若者もお年寄りも、仕事で疲れて食事をつくる元気の出ない母親や父親も「今日

調理場もボランティアさんたちの交流の場になっている。



「このおかげで、ふだんもう一品増やす気持ちの余裕ができた」と話すお母さんという。



この日のメニュー。差入れのアイスパークについて、子ども100円、大人500円。

はちよつと食べに行こうかな」と寄ればいい。そして、子どもは食事後に遊んでもらったり、ちよつと勉強を見てもらったり、母親や父親は人生の先輩たちから子育てのアドバイスを受けたり、地域の子育て情報を交換したり、お年寄りは、子どもと遊んであげることを通じて子どもに遊んでもらえばいい。そこに障害のある子どもや大人がいてもいいし、外国籍の子どもや大人がいてもいい。より多くの人たちが「自分の居場所」と感じられるようになることが理想だ、と。

おそらくそれは、壁やドアで仕切られた特定の空間である必然性もないだろう。バイク屋の前で、店主がバイクの手入れをしていると、ワルガキどもが寄ってくる。元気か？ どうしてる？ 学校行ってるのか？ と立ち話する中で、いつの間にか進学相談やアルバイト相談や恋愛相談になっている。そんな「場」。家の前の掃きそうじをしていると、近所の人を通りかかって話し込むことになり、そこに下校途中の子どもたちが寄ってきて、そのお母さんたちも合流して、子どもたちが遊ぶ中で大人たちが立ち話しているような、そんな「場」。

人々が交差するときに、ただすれ違うだけでなく、ちよつと留まることによって生まれる「場」が、近藤さんのイメージだ。

「こども食堂」の誕生

近藤さんはあるとき、知り合いの小学校副校長から「給食以外は、毎日バナナ一本だけ

で過ごしている子どもがいる」という話を聞く。何かできないかと考えているうちに1年半が経ち、その子は児童養護施設に入所してしまった。

その子に何もできなかったと思う中で、他にもいるはずのそうした子どもたちが安心して来られる食堂を開こうと思いつく。ファミレスでも、子ども一人ではなかなか入りづらい。地域の中に子どもが一人でも行ける場所はない子どもは、世の中に居場所を見出しにくい。(私がかつて対談した小説家の重松清さんが「子どもはしらふで生きている。すごいよね」と言っていたのを思い出した)

ウチは子どもが来ても「お父さん、お母さんと一緒にやないの？ どうしたの？ とは聞かないよ」。あなたが一人で来てもいい場所なんだよ。それで「こども食堂」。

すべてが、1つの会話から見えてきた1つのニーズから出発している。道端で立ち話しているうちに何かを思いついた、というように。そしていつも、利用する本人たちに向けて「この場はあなたが来たい、あなたを歓迎する場なんだよ」というネーミングをしている。

「こども食堂」という名前には、こうした経緯と思いが盛り込まれている。単に昔の地域コミュニティをなつかしむのではない。昔には戻れない現在という地点において、未来へ向けて新たな「場」を創り出していこうという試みだ。

多様で、雑多で、豊かな「こども食堂」

それはもう、今「こども食堂」と聞いて、人々がふつうにイメージするものとは違うかもしれない。しかし、名付け親が、そのような「場」のイメージをもって「こども食堂」という言葉を使い始めたことは、覚えておいていい。

というのも「こども食堂」が急速に広まり、普及する中で、どうしても先駆者が込めた思いというのは、薄められていってしまうから。そしてヘタをする「どこか適当にマンションの一室でも借りて、子どもを集めて食事させれば補助金が出るでしょ？」みたいな勘違いを生み出していくから。

そしてそのような勘違いが「こども食堂って、子どもをダシにして、自らの食い扶持を確保しようとするうさんくさい人たちがやってるんでしょ」といった無用の偏見と反発を生み出していくから。万が一そうってしまったら、当の子どもたちに申し訳が立たないから。

「こども食堂」というネーミングがなければ、こども食堂がここまで広がることはなかっただろう。「みんなの家」では、何をする場所かイメージがわからない。

しかし「こども食堂」は「こどもの食堂」ではない。もっと多様で、雑多で、豊かなものだ。「こども食堂」の取組みを盛り立て、広げつつ、その理念も失わずにいたい。

「広がれ、こども食堂の輪！」 全国ツアー実行委員会

<http://kodomoshokudo-tour.jp/>

代 表 栗林 知絵子(特定非営利活動法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク理事長)

副 代 表 平野 寛治(一般社団法人全国老人給食協力会専務理事)

実行委員
(団体・個人) 特定非営利活動法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク
一般社団法人全国老人給食協力会
池本修悟(一般社団法人ユニバーサル志縁社会創造センター専務理事)
小川真一(専業主夫)
近藤博子(気まぐれ八百屋だんだん店主)
佐甲学(社会福祉法人全国社会福祉協議会児童福祉部部长)
高橋潤(認定NPO法人長野県みらい基金理事長)
室田信一(首都大学東京准教授、コミュニティ・オーガナイズ・ジャパン副代表理事)
湯浅誠(社会活動家、法政大学教授、公益財団法人子どもの貧困対策センターあすのばアドバイザー)

相 談 役 山崎美貴子(東京ボランティア・市民活動センター所長)
青砥恭(全国子どもの貧困・教育支援団体協議会代表)
米山けい子(全国フードバンク推進協議会代表/NPO法人フードバンク山梨理事長)
湯澤直美(「なくそう! 子どもの貧困」全国ネットワーク世話人/立教大学コミュニティ福祉学部教授)
釜池雄高(こども食堂ネットワーク事務局長)
胡内敦司(千葉県松戸市子ども部審議監)

後 援 子どもの貧困対策推進議員連盟
内閣府(講師派遣事業について)、厚生労働省、文部科学省、農林水産省
社会福祉法人全国社会福祉協議会
全国民生委員児童委員連合会
一般社団法人共同通信社

助 成 中央共同募金会「赤い羽根福祉基金」



赤い羽根福祉基金

協 賛 プルデンシャル生命保険株式会社



Prudential

株式会社プレコフーズ



株式会社 プレコフーズ

事 務 局 〒158-0098 東京都世田谷区上用賀6-19-21 一般社団法人全国老人給食協力会内
「広がれ、こども食堂の輪!」全国ツアー実行委員会事務局
電話(祝日を除く月~金曜日 9時~17時): 03-5426-2547 E-mail: kodomoshokudo.tour@gmail.com

「広がれ、こども食堂の輪!」全国ツアー公式パンフレット

2016年9月28日 第1版発行

立体ロゴ・人形・イラスト制作=kucci デザイン=河野章太 編集=「広がれ、こども食堂の輪!」全国ツアー実行委員会

※パンフレットの内容が更新された場合は、全国ツアーのウェブサイトにも最新のものを掲載いたします。
また、本資料の無断転載・複写を禁じます。 ©2016「広がれ、こども食堂の輪!」全国ツアー実行委員会